

等いろいろな角度からせまることができると思います。

ちなみに自分は国語科と社会科を合わせて2時間で扱った記憶（簡単なミニ新聞づくり→発表→掲示利用）があります。教育課程上正式な扱い方ではないのですが、どうせ連休明けが浮かれているなら、それをめいっぱい利用しようという考えからです。

残念ながらその資料が手元にはもうありませんし、成功するかどうかは別として、ただの自慢大会にならないように声かけ支援をし、ねらいさえはずさなければこの種まきは学級づくり後につながるはずです。

もっとも、今の私には実践の仕様もなく、家庭生活でも二極化の進む最近の子どもたちには有効な手だてにならないかもしれません。ご助言あればぜひください。

「ただの自慢大会にならないように声かけ支援し…」というところがポイントですね。このような種まき、多くの場でやっていきたいものです。

続いて、同じ山口県の津村先生からの投稿です。

5月の連休あけにしたいこと

学級開きをして約1ヶ月たつと、次第に子どもたちの様子から学級のよさや問題点が浮き彫りになってくる時期です。担任としても今の子どもたちを学期末までにどう育てて成長させていくべきなのが見えてくる時でもあります。そこでこの時期に、学級の行くべき道しるべを子どもたちと一緒に確認し、目標に向かって努力していこうとする気持ちを高めさせることのできるチャンスです。是非とも、この時期にこそ学級目標を具体的に明らかにして、学級づくりの一つの方法として取り組んでいくことが望まれます。

- ・学級目標を発展させた学級のネーミングを募集し、親しみやすくする工夫。
（一人ひとりの思いや期待をふくらませたネーミングなどを行い、「いるか」「シャボン玉」「なかよしペンちゃん」「チューリップ」「たぬき」など学級像が見えてくるような親しみやすいネーミングを考える）
- ・学級目標の評価活動を取り入れた帰りの会の工夫。
（帰りの会での「よいこと見つけコーナー」で発表するとき、「〇〇さんの行ったスリッパそろえは、目標の◎◎にあたります。」などの児童による価値付けをさせて意識させることを始める。それをシール等で貼って集団による達成感を味わわせるとなおい。）
- ・日常の子どもたちの活動を、学級目標と結びつける教師の支援。
（掃除時間や学習時間、給食指導時間などあらゆる場面で児童を褒めるときは、学級目標のどれにあたるか教師が価値づけることを始める。児童も一つ一つの行動を意識するようになる。）

4月につくった学級目標を具体化する取組みを連休明けに始めようという提案ですね。

2 学級通信を考える～その13：授業参観のお知らせ

山口市立平川小学校 梶田崇晴

学級通信を使って「〇月〇日〇校時に授業参観があります。ぜひおいでください。」という呼び掛けは、ほとんどの方がされているだろうと思います。この呼び掛け、当然のことですが、授業参観の数日前に行いますよね。

授業参観にこられた保護者の方の関心事は、我が子がちゃんと授業を受けているかと、発表しているかの2点がほとんどですよね。せっかく足を運んでもらったのにそれだけじゃもったいないとは思いませんか。

そこで下記の3点を通信で知らせるのです。

*授業のねらい *ねらいに迫る手だて *参観の観点
それによって、来られた方々に授業の内容にも関心を持ってもらおうというわけです。これまでの経験から、親の評判はよくなるようです。

この通信をいつ配布するかということですが、参観日当日、教室の前に「保護者の方は自由にお取りください」と書いて置いておくのです。授業に関心をもってもらえるだけでなく、内容が分かるので、保護者同士の雑談も少なくなるようです。事前に前日に配布しておくのも手です。こちらの方が効果が高いかも…。

3 学級経営案は3回書いてみよう

山口市立平川小学校 梶田崇晴

もうすぐ4月も終わります。新しく出会った子どもたちの様子も少しずつつかんでこられた頃ではないでしょうか。そろそろ学級経営案を書かれる時期だと考え、学級経営案についての私見をまとめてみることにしました。

さて、タイトルにも書きましたように、“学級経営案というものは、3回書いてみる”ということをおすすめします。
『3回も書くの?』という声が聞こえてきそうですが、以下を読んでみてください。

1 回目

今年はまだ手遅れですが、1 回目の学級経営案というものを担任する学級が決まった日に書きます。

形式はいつでもいいのです。ここでは、〇年生だったら、こんなことをやってみたいなあ、こういうことができるかもしれないなあということを書き綴っていくのです。これを【夢の経営案】と呼んでいます。とにかく思いつくままにたくさん書かれることを勧めます。可能であれば、〇月頃、という時期も書いてみてください。

2 回目

始業式の日、子どもたちとの出会いがあります。それから4月いっぱいくらいをかけて、子どもたちと触れ合っていきます。また、子どもたちの様子をしっかり観察されていると思います。そこで、子どもたちの実態を書き、それをもとに1 回目に書いた【夢の経営案】を加除修正していきます。

つまり、書いていたけどどうもできそうにない、というものは消していきます。その代わりに〇〇ならできるとか、という代案があれば、新たに書き込んでいきます。

3 回目

いよいよ本物の学級経営案を仕上げます。時期的には5月連休明けくらいから始めます。私が勧める学級経営案というのは「やろうと思っていることをすべて書く」というものです。ですから形式にこだわらないようにしています。枚数にも制限ありません。とにかく書くのです。

この時、子どもたちの目指す姿を11月頃に設定します。そのことによって、学級経営に見通しがもてます。また、11月に修正も可能になってきます。学校教育目標に準じて書く方法もあるでしょうし、教科・道徳・特活という項目を立てて書く方法もあるのではないかと思います。

例えば、授業づくりであれば、「11月頃、こんな授業ができたらいいなあ」という気持ちで、目指す授業中の子どもの姿を書いてみるのです。そうすることにより、「だったら、5月には〇〇をやっておこななくちゃ」とか「6月には◇◇という手だてを打っておこう」というような授業づくりの見通しがもてるはずですよ。

こういう感じですよ。お分かりいただけましたでしょうか。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第32号は5月中旬ごろ発行予定です。

次号は、「係活動」について第3弾をお送りする予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は148名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

<実践投稿のヒント>

- 6月頃 室内でできる簡単イベント
- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える
- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====
山口学級活動ネットワーク メールマガジン
☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで
☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部
梶田崇晴（山口市立平川小） 津村元文（防府市立西浦小）
能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小） 吉田哲朗（山口大学附属山口小）
=====